



能登町長
持木 一茂

能登町の皆様には、すがすがしい新年をお迎えのことと、謹んでお喜び申し上げます。

旧年中は、町政全般にわたり格別のご理解・ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて、「好機逸すべからず」とはよく言われる言葉であります。昨年、昨年は物事の判断、対応に熟慮を重ねた年であったと感じております。

好機と見るべき動きとして、昨年6月「世界農業遺産」に「能登の里山里海」が認定されたことが挙げられます。これにより、能登半島の皆様は、先祖より受け継ぐ伝統や自然が価値あるものと再認識し、過疎によって失いかけていた誇りを呼び戻すことができました。

また、姉妹都市であった宮崎

謹賀新年

県旧野尻町、現在の小林市と今後とも姉妹都市として交流することを確認したほか、今日17日、千葉県流山市とも姉妹都市の盟約書に調印することとなっております。両市の皆様が能登町に魅力を感じていただきますよう、能登町の皆様にも一層のご研鑽をお願い申し上げますとともに、相手方の魅力も探りながら、お互いを良く知り合う仲間になっていきたいと思っております。

これらのような追い風に乗るためにも、能登町の一体感を高めたい、そんな思いから能登町民大運動会を開催いたしましたところ、大勢の皆さんに参加していただきました。この大会を通じて、皆様に旧町村の枠を超えた交流が根付いているこ

とを垣間見ることができたほか、各地区の熱のこもった応援が大会を盛り上げるなど、収穫の多いイベントであったと思っております。

町として成熟の度合いを深めている能登町であります。我が国を取り巻く情勢は、緊張の糸を緩めることの出来ない状態が続いております。新燃岳の噴火、東日本大震災、台風12号など、大規模な自然災害によって国難とも言える状況に陥った上、欧州発の経済問題、高値で推移する日本円など、経済の情勢も楽観できません。そんな中政府が進める環太平洋経済協定や増税等の効果・影響について、政府には明確な説明と慎重な対応を求めていると思っております。

昨年お披露目いたしました能登町音頭の5番に、「空と大地の夢きずな 能登はしあわせ出会う町」とあります。能登町が放つこのイメージを大切に、広

がる交流の輪をより強く結びつつ、教育、福祉、防災と町のなすべき重要3項目を中心としたあらゆる施策を、住民の皆様のご協力を得ながら好機を逃さず

推進したいと思っております。

最後に、皆様にとりまして、本年が健康で幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



能登町議会議長
久田 良平

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げますとともに、日ごろから議会活動に温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、「東日本大震災」、「福島原子力発電所」による原子力災害、「また、台風12号・台風15号による全国

的な「大雨洪水災害」など、日本国民にとって忘れることのできない大災害が起きた一年でありました。

このような中、能登町においては、ふるさと農道（羽生地区）の開通、地域活性化や教育・研究の発展を目指すための東海大学との提携、能登地区4市4町の「能登の里山里海」が世界農業遺産に登録されるなどの明るいニュースもありました。

しかし、町を取り巻く社会情勢は今なお厳しいものがあります。加えてこの度の震災により、町の防災力、能登半島全体の防災力の強化など、万が一の事態への対応も早急に考えていかなければいけません。そして、以前からの課題である「少子高齢化」、「雇用対策」など、これら多くの課題を解決するため、町民の皆様のご意見やご提言をいただき、皆様と町・議会が協働してまちづくりを進めていくことができますよう、我々議会もさらなる努力をさせていただきます。

結びに、町民の皆様のご理解とご協力をお願いし、皆様にとって最良の年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。